

10 柔道競技

- 1 期 日 6月2日(金) 計量(男女個人) 14時～14時50分 鶴岡市朝暘武道館1F
審判・監督会議 15時00分 鶴岡市朝暘武道館 2F 会議室
第1回理事会 16時00分 鶴岡市朝暘武道館 2F 会議室
6月3日(土) 開会式 9時00分 (7時45分 開場)
競技開始 9時40分 男女個人試合 (表彰式)
6月4日(日) 審判・監督会議 9時00分 (8時00分 開場)
競技開始 9時30分 男女団体試合～ 閉会式
- 2 会場 鶴岡市朝暘武道館 〒997-0825 山形県鶴岡市小真木原町2番1号
TEL 0235-29-1346 FAX 0235-29-1347

3 競技規則

(1) 試合は「国際柔道連盟試合審判規定」による。

(2) 「優勢勝ち」の判定基準

① 団体試合は、「技あり」以上または「僅差」(「指導」差2以上)とする。チームの内容が同等の場合は、代表選手を任意に選出して代表戦を行う。代表戦で得点差がない場合、延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。

※代表戦における優勢勝ちの判定基準は「技あり」または「僅差」(「指導」差2以上)以上とする。

ただし、勝敗が決しない場合は延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。

延長戦の判定基準・実施方法は個人試合に準ずる。

② 個人試合は、「技あり」以上とする。得点差がない場合は、延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。

(3) 個人試合において「同時反則負け」の場合、次の試合の出場者は、延長戦(ゴールデンスコア)によって決める。

(4) 試合時間は団体試合、4分とする。個人試合はベスト16まで3分とし、準々決勝以降4分とする。延長戦(ゴールデンスコア)は、無制限とする。

(5) 柔道衣コントロールは各自の責任で行う。試合中に違反が発覚した場合は、「反則負け」となる。

(6) 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。

4 競技方法

(1) 男子団体試合

① 試合はトーナメント法で実施する。

② 3位チームで東北大会出場決定戦を行う。

③ チームの勝敗の決定は次による。

ア 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

イ アで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

ウ イで同等の場合は、「技有」による優勢勝ち数の多いチームを勝ちとする。

エ ウで同等の場合は、「僅差」(「指導」差2以上)勝ち数の多いチームを勝ちとする。

オ エで同等の場合は、引き分けとし、代表戦を行い決める。

(2) 男子個人試合

① 体重別試合とし、トーナメント法で実施する。

② ベスト4が東北大会出場権を得る。

(3) 女子団体試合

① 試合はトーナメント法で実施する。

② 1位、2位チームが東北大会出場権を得る。

③ チームの勝敗の決定は、男子と同じとする。

(4) 女子個人試合

① 体重別試合とし、トーナメント法で実施する。

② 1位、2位が東北大会出場権を得る。

5 参加資格

基本要項に準ずる。

6 参加制限

(1) 男子団体試合

① 各校1チームとし、オープン参加とする。

② 試合は5人の点取り試合とする。チームは監督1名、選手8名を申込み(登録)、2日目監督会議前までに、オーダー用紙に選手5名と補欠1名を記入し提出すること。

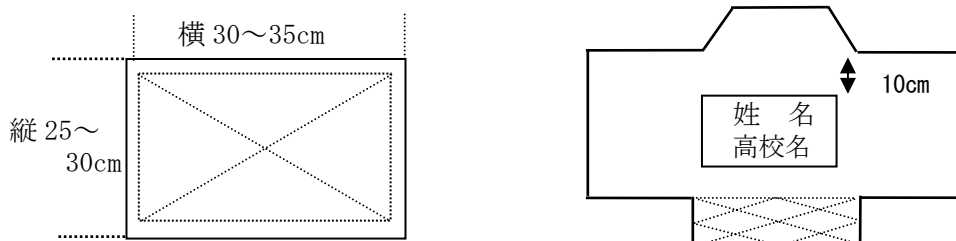
(2) 男子個人試合

① 体重別試合とし、次の7階級とする。

60kg級、66kg級、73kg級、81kg級、90kg級、100kg級、100kg超級

- ② 選手は各地区予選を経た者とする。
- ③ 各校から同一階級に出場できる選手は4名までとする。
- (3) 女子団体試合
- ① 各校1チームとし、オープン参加とする。
- ② 試合は3人の点取り試合とする。チームは監督1名、選手6名を申込み(登録)、2日目監督会議前までに、オーダー用紙に選手3名と補欠1名を記入し提出すること。
- (4) 女子個人試合
- ① 体重別試合とし、次の7階級とする。
48kg級、52kg級、57kg級、63kg級、70kg級、78kg級、78kg超級
- ② 選手は各地区予選を経た者とする。
- ③ 各校から同一階級に出場できる選手は4名までとする。
- 7 参加申込及び宿泊申込 基本要項に準ずる。
- 8 表彰及び上位大会出場選考
- (1) 基本要項に準ずる。
- (2) 全国高校総体出場枠
男女ともに団体優勝校、個人は男女各7階級の優勝者が出場権を得る。
- (3) 東北大会出場枠
男子団体は上位3校、女子団体は上位2校。男子個人7階級の上位4名、女子個人7階級の上位2名が出場権を得る。
- ※個人で出場権を得た者が、怪我等で棄権する場合は、その事実が判明次第早急に委員長に連絡すること。代替え選手については別途審議のうえ決定する。(基本的に同校の選手変更は認めない)
- 9 組合せ
- (1) 団体試合
- ① 男子女子とも新人大会ベスト4(強化指定校)、各地区1位の順にシードする。
- ② 同地区が各グループに地区ベスト4等、バランスよく入るように組み合わせる。
- (2) 個人試合
- ① 強化指定選手、新人大会ベスト4、地区1位の順にシードする。
- ② 同地区が各グループに地区ベスト4等、可能な限りバランスよく入るように組み合わせる。
- ③ 同一校から2名以上出場の場合は、決勝又は準決勝まで対戦しないように配慮する。
- (3) 組合せ抽選日 5月23日(火)(於:酒田南高校 予定)
- 10 連絡事項
- (1) 男女団体試合のオーダー表(対戦掲示用)は各校で準備し、次の要領により、2日目監督会議前までに、オーダー用紙と共に事務局に提出すること。
- ※模造紙縦1/4(27cm)にて、左より縦書き(巾約13cm)先鋒、次鋒、中堅、副将、大将、学校名の順に選手名を記入し、角封筒に入れる。女子は、次鋒と副将をあけて記入する。
- (2) 団体チーム及び個人の監督は、男女が同一にならないようにすること。
- (3) 平成23年度通達があった試合中における「監督の行為・言動」、「罰則規定」については、十分理解しておくこと。
- (4) 大会前1か月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
- (5) この大会は、国体選手選考の参考資料となる。
- (6) 本大会の個人試合で、1・2年生のうち1・2位になった者は、強化選手として追加指定する。
- (7) 計量で合格しない者、ゼッケンの付いていない者は出場の資格を失う。
- (8) ゼッケンの付け方などは、次のとおり。

(図1) ゼッケンの縫い付け方 (図2) ゼッケンの位置



- ① ゼッケンの布地は、晒太綾(さらしふとあや)を使用する。
- ② 図1の点線の部分を、図2の位置に強い糸で縫い付ける。(縦横ならびに対角線)
- ③ 姓は上側2/3、学校名は下側1/3の部分に、書体は楷書で、男子は黒字、女子は赤字で書く。
- ④ サイズは縦25~30cm、横30~35cmとする。